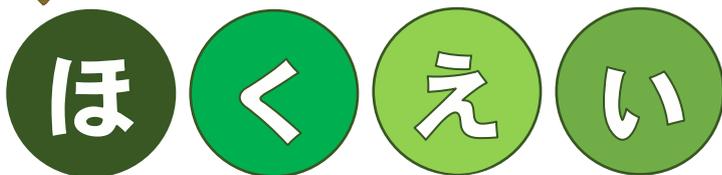




帯広市立北栄小学校 学校便り 8号

家庭や地域と共にある学校～共育(きょういく)～



《めざす子ども像》

- ▶ 自らすすんで学ぶ子ども
- ▶ 互いを認め合い自分と相手を大切にできる子ども
- ▶ 健康や安全に気を付ける子ども

令和6年6月28日 発行者 柴山 敬
http://www.hokuei.obihiro.ed.jp/

慌てず 急いで きちんと反応 避難訓練から学ぶ

6月12日(水)に避難訓練を行いました。当初5月に予定していましたが、荒天のため延期したためこの日に実施。帯広市消防署の職員の方にもご協力いただき、避難行動終了後に講評をいただきました。



なじみのキーワードですが、「お・は・し・も」とは？消防署の方には、地震や火災発生時の注意点を併せて、改めて確認していただきました。

おさない、**は**しらない、**し**ゃべらない
もどらない・・・お・は・し・も

ご存じのとおり今年1月に能登半島地震や羽田空港で飛行機事故が発生し、万への備えはもちろん、事故発生時に適切な行動をとることは大変重要なことです。

特に飛行機事故で乗務員の的確な判断と誘導、乗員同士の声かけによって379人全員が無事に避難することができたことを子供たちに知ってもらい、緊急時にも「慌てず・急いで・きちんと反応」できるようになってほしいと伝えました。

「いざは普段なり」という言葉もありますが、子供たちには、学校生活をはじめ、様々な活動を通じて、たとえどんな厳しい状況におかれたとし



ても自分自身も、そして周りの人も一緒に生き延びるために最善を尽くす姿勢を身に付けてくれることを切に願っています。

日	曜	7月の行事予定
2	火	メディアに関わる講演会(5・6年)
3	水	Sアップ
4	木	プール学習(5・1・4年) 読み聞かせ(3年)
5	金	夏のふれあい学習(そらいろ) 児童会④
6	土	北栄げんきクラブ
8	月	にじいろお楽しみ会① 返本週間(～12日)
9	火	ALT(4・5年)
10	水	ALT(3・6年) Sアップの学習(5年) 北栄子どもまつり実行委員会
11	木	クラブ② 読み聞かせ(2年) 児童集会
12	金	プール学習(3・2・5年)
16	火	ALT(4・5年) 夏休み図書貸出日
17	水	ALT(3・6年) Sアップ 夏休み図書貸出日
18	木	読み聞かせ(1年) 休み図書貸出日
19	金	クラブ③
20	土	北栄げんきクラブ
23	火	終業式 大掃除 ALT(1年) 1学期の思い出発表
24	水	学習スタジアム①
25	木	夏休みプール(12:45)
26	金	学習スタジアム②
27	土	ラジオ体操のつどい①
28	日	ラジオ体操のつどい②
30	火	夏休みプール(9:45)

児童 26 人全員完走！ 「ファン・ランニング」で達成感

学校便り 6 号で本校のコミュニティ・スクール (CS) 主催「ファン・ランニング」の1回目の事前チャレンジについて紹介しました。その後 6 月 15 日 (土)、22 日 (土) の練習を経て、23 日 (日) に浦幌町で開催された「うらほろマラソン 2024」に児童 26 人が参加しました。



この企画は、本校の体力向上の取組の一環として、児童がマラソン大会出場を目標に持久力や基礎体力を養うとともに、地域の関係者とのふれあいを通して身体を動かすことの心地よさを実感することをねらいとして、昨年度に引き続き実施したものです。子供たちは、大会のコース 1 km・2 km・4 km のいずれかのコースを選択し、それを目標に挑戦しました。

6 月 15 日・22 日の練習

練習では、昨年度もご指導いただいた元オリンピックスピードスケート日本代表選手で、現在は帯広大谷短期大学でスケート部監督の石澤志穂さんと同部員の方にご協力をいただきました。

練習内容は、日ごろ同スケート部で取り入れているトレーニングが中心。小学生が興味をもって取り組めるようにアレンジし、全身ストレッチをはじめ、体育座りから立ち上がって走る反応系を意識した運動や体幹を鍛えるトレーニングのほ

か、学校の周辺を 2～3 周走る練習をしました。



校舎外周を走る回数は、児童それぞれが選択。自身のコンディションと願いや希望を踏まえて、意思決定して挑戦しました。自分で決めた目標を達成した児童もそうでない児童もマラソン大会に向けて決意を新たにする機会になったようです。また、この2回の練習では、地域の方や保護者の方が自らトレーニングに参加しながら、子供たちの挑戦しようとする気持ちを支えてくださいました。

うらほろマラソン 2024

マラソン大会では、子供全員が自分で選択したコースを完走しました。それぞれが決めた目標に挑戦し、達成できたことに子供たちは満足そうにしていました。子供たちの中には、達成感を得ただけでなく、「来年は 0km に挑戦してみたい！」などと新たな目標を見つけた子もいて、「ファン・ランニング」がやらされたものではなく、自分自身の取組として意識されていたことをうれしく思いました。



今回は、昨年度よりも多くの地域の方や保護者の方々に運営にご協力いただきました。本当にありがとうございました。